

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段()は在庫水準前期比(%) (自社所有分に限る。
点線内は全鉄連による予想数字 ()内は誤差率=予想値÷実績

平成28年11月末	平成29年2月末見通し	平成29年5月末見通し	平成29年7月末見通し
-46千トン 〔 2137 〃 〕 (97.9%)	+35千トン 〔 2173 〃 〕 (101.7%)	+65千トン 〔 2238 〃 〕 (103.0%)	-66千トン 〔 2182 〃 〕 (97.5%)
2139千 ^ト (100.1)	2190千 ^ト (100.8)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成28年12月末	平成29年3月末	平成29年6月末見通し	平成29年9月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は72,000円で前年比-900円、前期比では+1,900円。原料高を背景にメーカーは大幅な値上げを数次に渡り実行。それに伴い仮需も発生した。需給は均衡化し、価格も品種で若干の差異はあったが上昇基調。在庫は稼働日数の関係もあり12月末には増加に転じた。多くの販売店は値上げのスピードに付いていけず、転嫁未達状態で越年し、先々の採算が憂慮された。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は76,900円で前年比+6,500円、前期比では+4,900円。メーカー値上げに連動した仮需は1月帳破明け以降鎮静化。荷動き、市況にも一服感が現れ、精彩に欠く市場動向となった。値上げ転嫁は需要不足が響き少々しくない。値上がり玉に在庫が入れ替わりつつあるなか、販売量の確保と価格引き上げの両面で厳しい交渉に晒されていた。需要の足音遠しであった。	足どりは遅いが昨年より若干好転の状況といえそう。市況に中弛み感が出ているのは需要の出遅れが解消せず、転嫁の進捗がユーザーの抵抗により斑模様となっているためであろう。転嫁未達状態のままメーカーの更なる値上げに晒されている。先々の需要がある程度見通せる分野もあるが、何時、どのぐらいの量が市中に降りてくのか判然としない焦燥感が強い。また、店売りの低調が慢性化しており、これも不安材料である。	総論では価格上昇、需要漸増の基調であろうが、各論には下落場面を想定する見方も一部にはある。熾烈な販売競争をもたらす局地戦的な安売りなど、景況回復の足枷となっている。期待感とは裏腹に需要は先送りされ、その足どりは思いの外、重いようである。値上げ転嫁未達が解消されるのか、踊り場状態のまま期末を迎えるのか、見通し難である。大きな落ち込みもないが、目立った回復もなく年度上期を終えそうな趨勢であろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

小口当用買いの市場動向に終始している。メーカーの供給姿勢は順調で品種や地域で若干の差異はあるが全般的には需給均衡を保っている。市中の価格動向は上昇から現状維持にトーンダウンしており、需要も活発化しているわけでもないので抑制気味に在庫を持つ姿勢であろう。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) メーカーの相次ぐ値上げにも、民間、公共工事共に需要の端境期ということもあり、荷動きが今ひとつ冴えず、踊り場状態で、積み残した価格転嫁にも踏み切れずにいる。夏場からは各品種ともに徐々に荷動きが増加してくると思われる。関西では訪日外国人向けホテルの増改築、介護施設等の中小物件が出てくると思われ、また今夏も猛暑が予想されるため、7月以降の夏物家電需要に期待したい。

(愛知) 当地区は地場の主力産業である自動車の動向に左右されるが、現状は堅調に推移している。建築は中小案件が少なく、倉出しは低調であるが、来期には中小案件が増えるので、出荷増が見込まれる。ただ、過分な期待はしておらず、多少回復するていどであろう。